水稲生産農家の皆様へ

「ばか苗病」撲滅に向けた取組に、ご協力お願いします！

◆ばか苗病は種子伝染性病害です。
◆ばか苗病はその感染サイクル（次ページ）によって、撲滅が難しい病害です。
◆胞子が遠くまで飛散するため、特に、水稲の種子生産に甚大な影響を及ぼします。
◆地域ぐるみで、ばか苗病撲滅に取り組みましょう。

育苗ハウスで多発したばか苗

優良種子生産へのご協力について

採種圃場は、ばか苗病の発生がないことが法律で定められています。

◆道は平成26年度から、採種圃場に隣接する一般圃場にばか苗病の発病株があった場合、採種圃場内の株に関して以下の基準を設けました。

①一般圃場の発病株から100mの範囲内の株からは採種できない。

②一般圃場のばか苗病発生程度が少発生以上の場合、採種圃場に最も近い発病株から200mの範囲内の株からは採種できない。

◆採種圃場周辺の農業者の皆様には、育苗ハウス・本田の巡回および抜き取りに対するご理解とご協力をお願いします。

◆ばか苗病の発生が確認された場合や疑わしい場合、育苗ハウス・本田の巡回については、JA、採種組合、普及センターにご相談下さい。

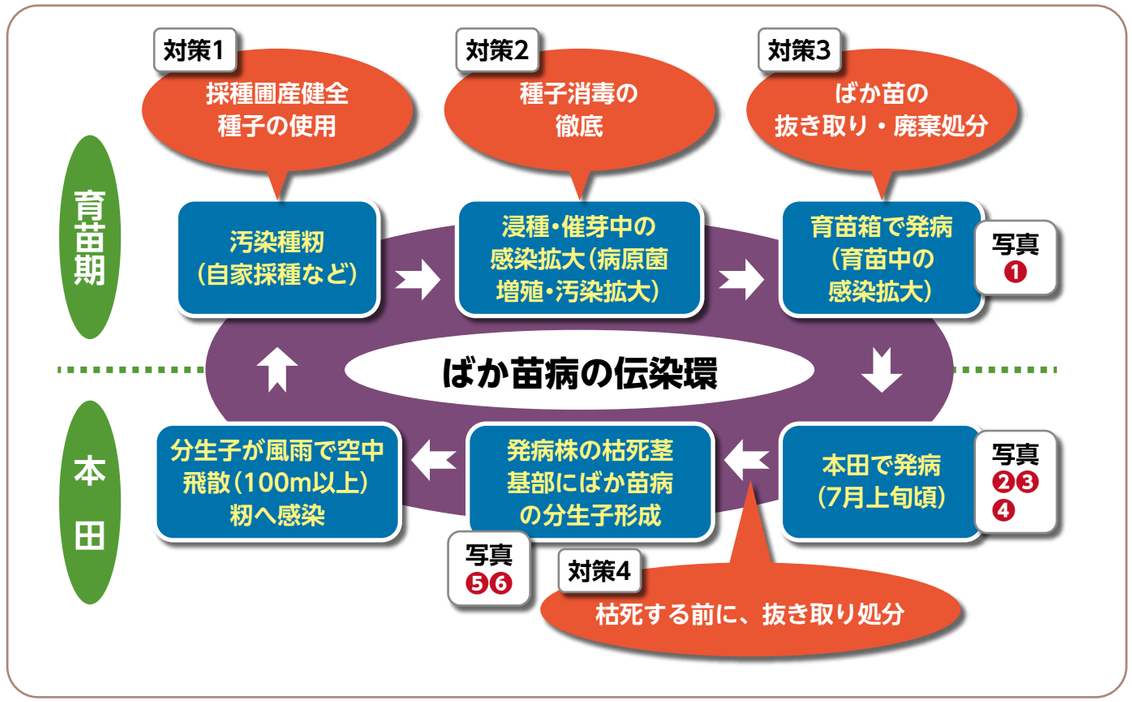
平成29年2月

北海道／道総研農業研究本部／ホクレン／北集／北海道米麦改良協会

米No.7

ばか苗病の感染サイクル、本田での症状、抜き取り

◆ばか苗病は種子伝染性病害です。
◆移植後に本田で発病する（写真❷❸❹）と、出穂期ころまでに枯死して（写真❺）、株元に無数の胞子（写真❻）を付けます。
◆胞子は数百メートル飛散するとされ、出穂・開花期以降、胞子が籾に付着または侵入すると、汚染種籾として翌年の発生源となります（下図）。



ばか苗（右）
正常苗（左）

徒長した罹病株
（本田）

本田における疑似症状株
（やや長い草丈と葉の黄変）

徒長した罹病株（本田）

枯死した罹病株（本田）

枯死株上の胞子（矢印）

抜き取り・廃棄処理

◆育苗期：ポット苗は株ごと、マット苗は周辺の土ごと（できればマット単位で）廃棄します。
◆本田の罹病株：枯死する前に株ごと根付きで抜き取り、出穂前に抜き取りを完了します。
◆疑わしい徒長苗や徒長株は抜き取ります。（写真❶～❻）
◆抜き取った苗や株は、土に埋める等、適切に処理します。

的確な種子消毒・種子の取り扱い方、育苗ハウス・作業場等の環境衛生の徹底

◆ばか苗病は的確な種子消毒（化学農薬等）、種子予措期間中の環境改善で抑えられます。
◆自家採種は保菌リスクが高いため、100％採種圃産種子を使用します。
◆ばか苗病が発生した圃場の稲ワラ・籾殻・米ぬか・粉じんなどは伝染源となります。種子予措などの作業場やその周辺を清潔にします。

◆種子消毒のポイント
①化学農薬は効果が確実で安定している。
②微生物農薬は薬液温度を厳守する。
③温湯消毒は処理温度・時間・量を厳守（温湯消毒種子はすぐに冷やし、乾燥または浸種する）。
④各種子消毒法を組合せて防除効果を高める（右表）。
◆ベンレートによる種子消毒は、ばか苗病に効果がありません。

表　種子消毒法による防除効果の違い（平成22年北海道普及推進事項から抜粋）

種子消毒法			防除効果（ばか苗病）
単独処理（対照区）	エコ	（エコホープ 浸種前200倍浸漬）	C～D
	エコDJ	（エコホープDJ 浸種前200倍浸漬）	D
	食酢	（食酢50倍）	D
	温湯	（温湯消毒60℃ 10分）	B～C
	タフ	（タフブロック 200倍）	D
組合せ処理	エコ ＋ 食酢		B～C
	エコDJ ＋ 食酢		B～C
	温湯 ＋ 食酢		B～C
	温湯 ＋ タフ		B～C

（防除効果）B：化学農薬と比べほぼ同等、C：やや劣る、D：劣る

◆種子の取り扱い方
①消毒方法が異なる種子や未消毒種子を一緒に浸種しない。
②消毒前の種子と消毒後の種子は同じパレットやシート等に置かない。
③浸種・催芽で使用する機器や容器は、使用前後に十分洗浄する。品種や消毒方法が変わるごとに十分に洗浄する。

ばか苗病防除チェックシート

環境衛生

□	作業場所やその周辺から、伝染源となる稲ワラ、籾殻、米ぬか、粉じん等を除去し、十分清掃する。
□	消毒前の種子と消毒後の種子を同じパレットやシート等に置かない。
□	温湯消毒済み種子は、清潔で過湿にならない場所で保管する。
□	浸種、催芽で使用する機器並びに容器は、品種や消毒方法が変わるごとに十分に洗浄する。

浸種・催芽

□	種子消毒、浸種は水温10～15℃を確保する。
□	浸種期間は浸種水温10℃で6日間程度とし、安定した薬効を確保するために、水交換は2～3回とする。
□	温湯消毒法は、生物農薬等と組み合わせ処理をする。
□	複数の品種や消毒方法の異なる種子を同じ容器で浸種・催芽しない。
□	催芽は30～32℃で行う。

出芽・育苗管理

□	苗の型式にあった育苗期間を設定する。
□	ハウス設置後は、被覆資材等による二重被覆を行う。
□	出芽までの温度は、32℃を超えないようにし、被覆期間は必要以上に長くしない。
□	ハウスの温度・水管理を適正に行い、健苗育成に努める。
□	育苗箱内の発病苗（ばか苗）は、見つけ次第直ちに抜き取る。

水稲生産農家の皆様へ「ばか苗病」撲滅に向けた取組に、ご協力お願いします！

平成29年2月

北海道・道総研農業研究本部・ホクレン
北集・北海道米麦改良協会